



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2021年 2月22日

日本鉄道労働組合連合会

### JR連合四国地協・2021春季生活闘争討論集会

**必達目標賃金めざし堂々とベアを求めよう！**  
**定期昇給の確保、賃金引上げ、総合生活改善の実現を！**

2月13日、JR連合四国地方協議会は、香川県宇多津町において2021春闘討論集会を開催し、感染防止を徹底して会場に約40名、リモート形式で約40名が参加した。



集会には来賓として、JR連合の中山耕介組織部長が出席し、コロナ禍での厳しい春闘交渉を下支えするJR連合の取り組みについて説明した。具

体的には、昨年の秋に実施した緊急署名をもとにJR連合が実施した、厚生労働大臣と国土交通大臣への要請行動などによって、雇用調整助成金の特例措置の延長が実現できたことや、昨年末に公表されたJR四国グループへの経営支援策の実現に繋がったとの報告がなされた。コロナ禍が長期化する中で、やむなく一時帰休を実施するグループ会社にとっては雇用調整助成金の特例措置は「生命線」となっているが、JR連合はコロナ禍が収束するまで特例措置が延長するよう国へ働きかけを強めていくので、堂々とベアを要求し労使交渉を行うよう訴えた。さらに、今こそ、JR連合に集うすべての仲間が、グループ内の鉄道やバス、ホテルや店舗などを相互に利用していく「ふれあいキャンペーン」が大変重要な取り組みとなっているため、継続した協力を求めた。

続いて、四国地協の幸大事務局長が、JR連合の2021春季生活闘争方針について解説し、リモート参加者を含め9名からの質疑を受けた。「厳しい交渉になるが粘り強くたたかってほしい」、「組合員が安心できるよう定期昇給を確実に実施してほしい」、「力強くベアを求めてほしい」といった賃金の改善にむけた声のほか、仕事と育児の両立支援、エキスパート社員の処遇改善、泊まり勤務の見直しの必要性などの働き方に関する意見も多く出された。とりわけ自動車支部の仲間からは待命休職が実施され月給が大きく減少している状況について発言があり、JR四国ホテルズユニオンからは雇用調整助成金の特例措置延長を求める切実な訴えがあった。

最後に、四国地協の大谷清議長（JR連合副会長、JR四国労組執行委員長）から、「四国地協に集う各単組は必達目標賃金に到達していない。すべての仲間の雇用と生活の維持を最優先に、定期昇給の実施と純ベア1,000円を堂々と掲げ、今春闘を一致団結して取り組もう！」と力強く訴え、がんばろう三唱で締めくくった。